

# 唐湊果樹園での一年を振り返って

野村 哲也

(農学部附属農場)

## はじめに

私は2005年4月1日付けで学内農事部より異動となり、唐湊果樹園に勤務している。まだ一年という短期間では、業務の全てを把握することは困難だが、4月から現在まで行ってきた業務内容、学生実習について報告する。

## 1. 施設紹介

唐湊果樹園は郡元キャンパスの南西部2.0km、徒歩で約20～30分の距離に位置し、紫原の丘陵地帯の北側と連なった陣ヶ平の小山に囲まれた場所で傾斜地(標高56m)、面積約7.3ha、ビニルハウス7棟、ガラス温室1棟を有する果樹園である。職員は教員1名、技術職員3名、事務補佐員1名で、常緑および落葉果樹、熱帯果樹を中心に実習教育と研究、生産を行っている。

## 2. 四半期別の業務経過と学生実習

### ・第一四半期

4月は展示即売会があり準備・販売会に約一週間を要する。この時期の作業としては草生管理(草刈、敷き草)が業務の中心となる。季節的にカンキツの繁殖にも適しているため接ぎ木を行う(約30品種)。その他にはブルーベリー管理(追肥、防鳥網張り、除草)があり、また梅雨時期の降雨によるソウカ病の伝染を防ぐ為に病斑枝葉の剪去を行う。

この期間の収穫物は、コウメ、ウメ、モモ、スモモ、ブルーベリー等がある。

実習は植物生産学コースが月曜、農林工学・農業経営経済学と生物環境工学は金曜の午後に隔週で実習を行う。第一四半期ではカンキツ、ビワの接ぎ木に始まり、防風樹管理やゴマダラカミキリ防除、モモの摘果と袋掛け、カンキツ摘果・施肥を行う。

### ・第二四半期

この期間で重要な作業として摘果があげられる。この作業の出来は果実品質・収量に影響を及ぼすが、高温、強日射の下での作業はきつく、遅々として捗らなかった。また気象面では、今年は台風上陸数が少なかったため、台風関連の作業や台風被害は少なかった。その他の作業としては、薬剤(ガットサイドS・バイオリサカミキリ)によるゴマダラカミキリ防除の徹底が困難な為、一本一本確認し捕殺を行う。また7月はブルーベリーの収穫の最盛期に当たるため週一～二回の収穫、出荷調整、その他の果物ではスモモ・モモ・ブドウ・パッションフルーツの収穫がある。また、雨天を利用して機械のメンテナンスを行う。

生物生産学特別実習・農場実習I等の集中実習があり、草生管理・防風樹管理・ゴマダラカミキリ防除・ブント摘果等である。暑く作業能率が落ちる為この時期の実習は学生にとっては苦痛の様である。

7月にはトロピカルフルーツ研究会、8月には果樹試験場北薩支場にて落葉果樹検討に参加した。機会があればカンキツの検討会にも参加し今後の業務に役立てたい。

### ・第三四半期

カンキツの収穫の最盛期である。極早生・早生・普通温州・ボンカン・スイートスプリングの順で週に一回収穫、出荷調整を行い、その他のカンキツの管理として不知火の袋掛け、早生温州の夏枝剪定を行った。

落葉果樹園では抑草または土作りのために、ヘアリーベッチ・ライ麦等の緑肥の播種、耕耘を行う。

実習はカキの収穫・脱渋、早生・普通温州、ボンカンの収穫、カンキツの施肥を行った。

### ・第四四半期

1月中旬までの経過として、スイートスプリングの収穫、出荷調整。

ウメの整枝・剪定を行った。今後は他の落葉果樹やカンキツの剪定を中心に行い、実習ではカンキツの堆肥散布、カキの剪定、中晩柑の収穫を行う。

### 3. 四半期・作目別の生産量と収入

表1 17年度の四半期・作目別の生産量と収入 (2006年1月20日現在)

平成17年度	作目	生産量	収入
第一四半期	果実	5,545.8kg	1,226,200円
	植物(果樹苗)	1,083鉢	537,100円
第二四半期	果実	436.4kg	373,100円
	植物(果樹苗)	13鉢	5,500円
第三四半期	果実	9,762.8kg	1,732,200円
	植物(果樹苗)	56鉢	31,200円
第四四半期	果実	1,433.0kg	225,700円
	植物(果樹苗)	10鉢	6,000円

上の表に示したように、果実は第一・第三四半期の売り上げが高く、植物(果樹苗)では第一四半期の売り上げが高くなった。春の展示即売会で果実は年間収入見込み額の三割、植物では九割以上の売り上げとなっている。

### 4. 今後の目標と反省点

唐湊果樹園ではマンゴー・レイシ・パッションフルーツ・ゴレンシ・アテモヤ等の熱帯果樹を栽培しているが、栽培本数が少なく学生の教育・研究には活かされていないので、熱帯・亜熱帯果樹部門を充実し、果樹全般の知識を持った学生を育て上げ、また、売上額の落ちる第二四半期の収入増加を図りたい。果樹園には様々な落葉・常緑果樹が栽培されているので、栽培管理の方法や品種の特性を把握しなければならない。

反省としては、仕事の段取りや、業務の効率的遂行等、思った以上に実行できなかったこと、また実習中の学生に対して技術指導、説明の欠落などがあり他の職員に迷惑をかけたので、今後は上記のことを改善し、指宿植物試験場・学内農事部で培った知識や経験を役立てていきたいと思う。